

## ◆漁業士活用育成事業

# 平成 24 年度漁業士認定事業

水産業改良普及センター 鹿熊 信一郎  
組んでおられます。

### 1. 漁業士認定及び審査状況

漁業士制度は、地域漁業の振興と中核的漁業者育成を目的に昭和 61 年からスタートしました。本県でも昭和 61 年には、6 名の漁業士が認定され、平成 23 年度現在 50 名の漁業士が漁業士会に入会し、地域リーダーとして活躍されています。その内訳は、名誉指導漁業士 3 名、指導漁業士 33 名、青年漁業士 14 名となっています。平成 24 年 12 月 21 日に県庁において平成 24 年度漁業士認定審査会が開催され、3 漁協より推薦を受けた、青年漁業士候補 2 名、名誉指導漁業士 1 名について審査が行われました。その結果、新たに漁業士 3 名が認定を受けました。また、辞退届を提出した 3 名の漁業士についても審査され、認められました。

### 2. 平成 24 年度漁業士紹介

#### ●名誉指導漁業士（池間漁協）

伊良波 進（いらは すすむ）  
昭和 7 年 3 月 20 日生（80 歳）

昭和 22 年に漁業を始め、以降、カツオ一本釣、底魚一本釣漁業を営んでこられました。カツオ節価格の下落によってカツオ漁業を中断した後は、周年底魚一本釣り漁業を営んでおられます。伊良波進氏が行い指導してきた石巻落とし漁法は、池間だけでなく全県に技術が普及しています。また、平成 5 年から沖縄県指導漁業士として、少年水産教室の講師や池間小中学校の漁業体験学習などの講師を務めるなど、後継者育成に熱心に取り

#### ●青年漁業士（伊良部漁協）

漢那 竜也（かんな りゅうや）  
昭和 51 年 3 月 15 日生（36 歳）

高校卒業後、漁業以外の仕事をされていましたが、平成 21 年に伊良部島に戻り、伊良部漁協の主要業態の一つであるカツオ一本釣り漁業の後継者として、父親とともに操業経験を積んでこられました。平成 24 年度より、伊良部漁協の小型船主会（パヤオ部会）の会長に最年少で就任し、また、青年部でも中心的なメンバーとして活動しており、今後、地域のリーダーとなることが期待されています。

#### ●青年漁業士（国頭漁協）

玉村 和也（たまむら かずや）  
昭和 54 年 1 月 16 日生（33 歳）

平成 20 年から国頭漁協の正組合員となり、操業 3 年目からは漁船の大型化を図り、一本釣漁業によるマグロ漁を中心にソデイカ漁などに取り組んでおられます。操業年数は 4 年と短いものの、平成 23 年・24 年の漁協総会の際には、水揚上位者として優良賞に表彰されるなど、若手漁業者の模範となっています。また、漁協青壮年部に在籍し、密漁取り締まりの監視活動の他、シラヒゲウニ放流などにも積極的に参加されています。